令和８年７月２日
保　健　医　療　局

手足口病が流行、都内で警報基準に達する
～ 夏季に流行する小児の感染症にご注意ください ～

手足口病は、主に夏に小児を中心に流行する感染症です。

都内の小児科定点医療機関からの第 26 週（６月 22 日～28 日）における患者報告数が２年ぶりに都の警報基準を超え、大きな流行となっています。

手足口病は、ウイルスによる感染症で、特別な治療法はありません。感染予防策としては、こまめな手洗いやマスクの着用、咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおうなどの咳エチケットを心がけることが大切です。

また、夏には、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱等も、主に小児を中心に流行します。ご家庭、保育所、幼稚園、学校等においても、感染予防策の徹底をお願いします。

※　別紙「小児を中心に流行する感染症について」も併せて御参照ください。

手足口病の症状、感染経路と感染予防のポイント

◆　口の中、手のひら、足の裏などにできる発しんや水ほうが主な症状です。
熱を伴う場合もあります。

◆　ウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、手についたウイルスが口に入ったりすることで感染します。

◆　アルコール消毒が効きにくいため、流水や石けんでこまめに手を洗い、自分専用のタオルで手を拭きましょう。

◆　咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおう等の咳エチケットを心がけましょう。

◆　症状がおさまった後も、患者さんの便の中にはウイルスが含まれますので（２～４週間）、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前には手洗いを心がけましょう。

【手足口病の患者発生状況】

◆　令和８年第 26 週（６月 22 日～28 日）の都内 264 か所の小児科定点医療機関から報告された定点当たり患者報告数（都内全体）は 6.30 人／週となっています。

◆　患者報告数が警報レベルにあるのは、31 保健所中 16 保健所で、管内人口の合計は、東京都全体の 48.59%にのぼります。

【警報基準について】

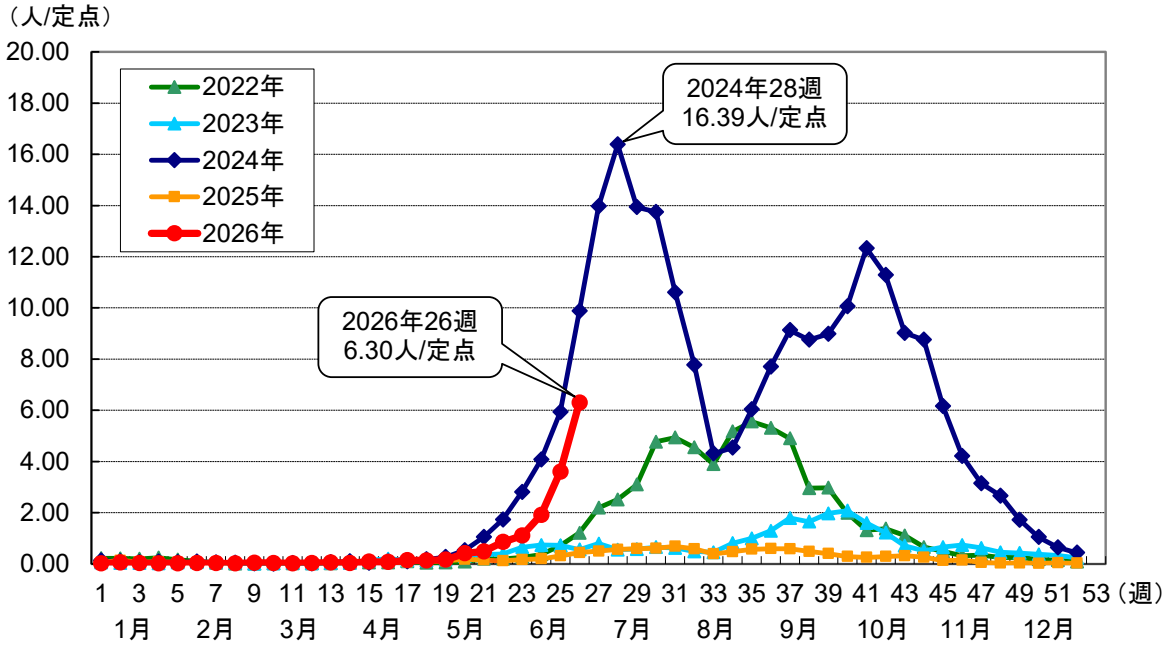
◆　都内264か所の小児科定点医療機関から報告された手足口病の患者数が、１定点当たり5.0人／週を超えると警報開始となります。警報は2.0人/週を下回る（警報終息）まで継続し、警報開始から警報終息までの間の状態を「警報レベル」としています。

◆　都においては、「定点医療機関からの患者報告数が、都全体で警報レベル開始基準値を超えた場合」、または「警報レベルにある保健所の管内人口の合計が東京都全体人口の30%を超えた場合」を、都全体の警報（大きな流行が発生または継続しつつあると疑われること）としています。

【問合せ先】
○　感染症に関する東京都の対応等、全般に関すること
東京都保健医療局感染症対策部防疫課　03-5320-4088

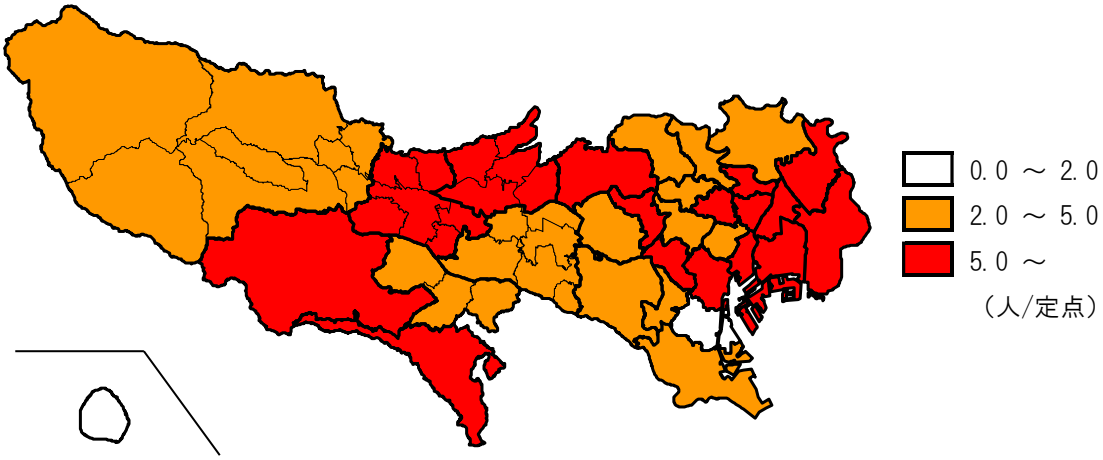
○　感染症患者の報告数（感染症発生動向に関すること）
東京都健康安全研究センター企画調整部健康危機管理情報課　03-3363-3213

東京都における定点当たり患者報告数（手足口病）（過去５シーズン）



出典：「東京都感染症発生動向調査」より　https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/

東京都における手足口病の発生状況（保健所管轄地域別）（2026 年第 26 週）



○　発生状況（定点当たり患者報告数）の塗り分けは、各保健所の管轄範囲が単位（例えば、小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市は全て、管轄する多摩小平保健所における発生状況に対応した色で塗り分けられている）です。

○　手足口病については、「保健所単位で定点あたり 5.0 人／週を超えてから 2.0 人を下回るまでの間」を警報レベルとしています。現在、警報レベルにある保健所は、都内 31 か所中 16 か所で、報告数が高い順に町田市（19.25）、江東区（15.22）、八王子市（11.91）、多摩小平（9.60）、文京（8.75）、渋谷区（8.75）、中野区（8.50）、江戸川（8.50）、みなと（8.17）、多摩立川（8.07）、墨田区（7.40）、台東（7.25）、練馬区（6.15）、葛飾区（6.13）、中央区（6.00）、荒川区（5.75）です。

○　最新の情報については、東京都感染症情報センターのウェブサイトをご覧ください。
https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/

別紙

小児を中心に流行する感染症について

１ 感染症名、主な症状等

	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	RSウイルス感染症
主な症状	● 口の中、手のひら、足の裏などに、発しんや水疱ができます。あまり高い熱は出ません。 ● 重症化はまれですが、合併症として急性脳炎や心筋炎があります。	● 突然の高熱で発症し、口の中の奥の方に水疱や潰瘍ができます。	● 発熱、咽頭炎（のどのはれ）、結膜炎（目の充血）などの症状があらわれます。	● 発熱、咳、鼻水、咽頭痛、頭痛、倦怠感（元気がない等）など、かぜに似た症状です。 ● 肺炎を起こすなど重症化することもあります。
原因ウイルス	エンテロウイルス属のウイルス（コクサッキーウイルスA群、エンテロウイルス71型等）	エンテロウイルス属のウイルス（コクサッキーウイルスA群）	アデノウイルス（adenovirus３、７型。それ以外に２、４、11、14型が知られている。）	RSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）
感染経路	● 患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染 ● 水疱の内容物や目ヤニ、便の中のウイルスが、手を介して口や眼などの粘膜に入ることによる経口及び接触感染			
治療	● 特効薬はありません。つらい症状をやわらげる対症療法が中心です。 ● 咽頭結膜熱は、眼の症状が強い場合は眼科での治療を行います。 ● 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱のワクチンはありません。 ● ＲＳウイルス感染症は一定の条件を満たした乳幼児向けの重症化予防薬（注射）が保険適応されています。			
その他	● 食事や水分がとりにくくなり、脱水症状をおこすことがあります。水分補給に努め、柔らかく、刺激の少ない食事を工夫しましょう。 ● ぐったりしている、呼びかけに対する反応が鈍い、意味不明の言動がみられるなどの症状が現れた場合はすぐに受診しましょう。 ● 特にＲＳウイルス感染症については、小さなお子さんにかぜのような症状が見られ、熱が38度以上に上がる、呼吸が浅く速くなる、ゼイゼイと咳が続く、痰が詰まる、急にぐったりするなどの様子が見られたときは、早めに医療機関を受診しましょう。			

２ 感染予防のポイント

お子さん

● 手足口病、ヘルパンギーナ及び咽頭結膜熱の原因ウイルスはアルコール消毒が効きにくいため、流水や石けんでのこまめな手洗いを習慣づけましょう。
（手洗いは多くの感染症に共通する重要な予防策です）

● お子さんが理解できる範囲で咳エチケットを心がけましょう
（人に向けてくしゃみをしないなど）

保護者の方や保育所等の職員の方

● 手指衛生や咳エチケットなど、感染防止にこころがけましょう

● お子さんに咳などの症状のある場合は、登園、登校を見合わせるなど無理をさせないように配慮しましょう

● 症状がおさまった後も、患者さんの便の中にはウイルスが含まれますので、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前には手洗いを心がけましょう

● 保育所、幼稚園、学校などの集団生活では、タオルの共用は避けましょう

● 先天性心疾患、慢性肺疾患などがある場合は、かかりつけ医に相談し、感染予防や病気にかかった場合の対応について、助言を受けておきましょう

咳エチケット

① 人混みに行く時や会話をする時、せき・くしゃみの症状がある時など、着用が効果的な場面ではマスクをしましょう。
② せき・くしゃみをする時は、口と鼻をティッシュでおおいましょう。
③ せき・くしゃみをする時は、周りの人から顔をそらしましょう。